

みんなねつと全国大会IN広島



去る10月13日・14日に行われた「2022年度第14回みんなねつと全国大会」が広島県で開催され、はまゆう家族会もオンライン視聴会を行いました。

「愛と自立を語ろう」をテーマに掲げ、趣旨説明では、精神障がい者一人ひとりが尊重され、自立して家庭を持ち、地域で安心して社会生活を送ることができ、共生社会の実現に向けた取り組みの、促進を目指してとつたわられていました。基調講演では、広島県自立支援協議会会長の石井知行氏が「地域において精神障がい者が安心して暮らせるために」というテーマで講演されました。先生の一言一言に当事者や家族への寄り添いが感じられ、お話に心より共感いたしました。先生は、地域包括ケアシステム構築のために検討会で、保健・医療・福祉体制の充実や諸制度の見直しを提言されています。地域において、その人がその人らしく、少しでも安定した生活ができる制度を設立するために重要なこと2点がある。1点目は「当事者を支える家族に対する支援が必要」もう1点は「社会の種々の差別偏見に傷つき、社会的不利益を被っている当事者・家族が安心して地域生活をおくるためには、差別偏見を解消するための諸政策が必要である。障害者差別解消法は、一定程度の成果をあげたが、不十分な側面もあり、更に差別解消禁止を発展強化させる必要がある。」と言われました。

私も子供以外のある当事者との関わりの中で、行政担当者の精神障がい者への無理解と偏見に唖然としたことがあります。国の法律は立派な法律が整っていますが、地域社会に周知徹底されることが大切であり、私たち家族や関係者が当事者とともに声にしていき、希望を捨てずに、精神障がい者施策の充実を目指してまいりたいと思います。大会「ご当地広島の被爆体験者である、八幡照子様のご力強いお話に勇気をいただきました。戦争の悲惨さと生命の尊さ、核の恐ろしさを今この時に伝えて下さり、感謝申し上げます。ありがとうございます。」 はまゆう家族会 川本 茂子

みんなねつと九州大会IN大分

コロナ禍での九州沖縄ブロック大会が11月17日18日に開催されました。3年ぶりに対面交流で開催ということに加え、リモート版での「家族による家族学習会」で大分の家族会の方々と一緒に取り組んできたこともあり、直接大分の家族会の皆さんに会えることに気持ちがいり、大きな期待を持って参加しました。

会場に着くと皆さんが温かく迎えてくださり、直接会えた嬉しさに満たされ、オープニングのオカリナ演奏では、あんなに小さな楽器から紡ぎだされる音色の美しさに驚きました。基調講演は、みんなねつとの岡田久実子理事長から「みんなが笑顔で元気になる家族会活動とは」と題し、自らの体験を通して家族会活動で工夫してきたこと、大切にしてきたこと、そして家族会のこれからを考えた、お話ししてくださいました。

「大切なことは、家族会は重要な社会資源だと確信を持つ人があきらめないこと」高齡化が進み会員数が減っていく家族会が多い中、家族会の基本を改めて気づかされました。先輩方が大切に築いてきた家族会という宝をしっかりと受け継ぎ、これからも楽しく温かく、無くてはならない家族会として活動していきたいと決意を新たにしました。

二日目は、特別研修会「当事者はなぜ親にあたるの？」精神障がい当事者と家族の相互理解プログラムのDVDを会場で視聴しました。その中の「振り返りタイム」では、会場参加者はグループに分かれ、それぞれで振り返りをしました。持ち時間15分ほどでしたが、初めて会った者同士とは思えないほど、たくさん意見が出て充実した時間が持てました。会場が温泉施設で、お料理もおいしく、温泉にもゆったり浸かることができ、至れり尽くせりのこの上なく楽しく有意義で大満足の二日間でした。福精連理事 隅谷和生

北九州ブロック合同スポーツ大会

10月28日、さわやかな秋空の下、コスモス揺れるグリーンパーク(北九州市立響灘緑地)で、スポーツレクリエーション大会北九州ブロック大会を実施しました。

当日は、事業所・家族会7団体59名の皆さまが参加してくださいました。檜橋ブロック長の挨拶の後、午前中は昨年大好評だったフィールドビンゴで今年も汗を流しました。問題が簡単すぎたのか、競技参加者の7割強がパーフェクトと好成绩が続出したため順位がなかなか付けられず、パーフェクト賞やビンゴ賞の賞品はなんと「じゃんけん大会」で争奪戦と相成りました。でも、グリーンパークの秋の自然をしっかりと満喫していた良かったです。

団体の部では、1位が「なないろ」と「ひまわり」、3位は「なおみの会」共同作業所でした。

午後からは、「秋のエリーゼ音楽会」でピアノ・ギター・ドラムの演奏で、懐かしい歌や最近の歌を大きな声で合唱しました。差し出したマイクにソロで歌ってくれたり、あかつき会スタッフが恥ずかしながら披露した「パプリカ」のダンスには、みなさんが歌ったり、踊ったりいぶん応援してくれました。最後の「上を向いて歩こう」にはステージ前で肩を組んで歌う方もおられ、大盛り上がり。音楽会は時間的に厳しいかなと思っておりましたが、みなさんの手拍子や歌声に、やってよかったなあと思えました。

「ありがとう」の曲でみなさんを見送っていると、「また、来年ね」とみなさんにこやかに手を振ってくださいました。みなさん、また、来年会いますよーね！あかつき会家族会 福山 一樹

いとしま会 会長 山下悦子

いとしま会は、糸島地区にある唯一の精神障がい者の家族会です。

平成8年3月29日にいとしま会の総会で承認され、家族会として発足しました。平成10年には、共同作業所「いとしま工房」を立ち上げ、平成18年まで支援運営にあたりました。現在作業所の運営は、NPO法人に移っています。地域での精神保健福祉事業に積極的に参加しています。月1回の定例会は、家族同士の話し合いの場であり、お互いの悩みや思いを、心を開いて語り合い、日々当事者との対応の中で生まれる悩みや、葛藤について、様々な角度からの意見や体験を伝え、学び合い、そして励まし合う大事な時間です。しかし、コロナ禍で、集まって開催できない時には、電話で声を聞き、仲間同士の繋がりを大事にしています。

私は平成28年に前会長より引き継ぎ、少ない人数の家族会ですが、助け合い研修会や行政の行事等に参加しています。いとしま会の総会も今年で23回目を迎えましたが、コロナ禍にて書面対応に、例年は講話を次第に盛り込み、家族会にとって大切なテーマ、欠かせない課題として多くの事を学んでいます。先日福精連大会では、家族会でZOOM参加しました。高森先生の講話には皆さん感動して元気を頂き、心新たな気持ちになる事ができました。現在、家族会の当事者さんが4名グループホームで暮らしています。私の長男もコロナ禍の中で、グループホームに入居することができました。発症から長男に寄り添い歩き続けてきた26年間、振り返れば、一番大変な時は幻聴との闘いでした。それでも今は少し落ち着き、グループホームでの自分の生活を保ちながら、仲間と暮らしています。

先日の定例会では家族会の皆さんと一緒に、糸島歴史資料館へ見学へ行き、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。これからも次の世代に引き継ぐためにも、いとしま会は地域活動支援センターや他の支援団体とも交流を深めながら皆さんと共に歩み続けていきます。

第3回家族・職員研修会

「家族相談業務のスキルアップ」

令和5年1月19日(木)
13時半~15時半
会場: 吉塚合同庁舎5F
講師: 高村 裕子氏

会場とオンラインの併用です。
参加希望の方は福精連までご連絡ください。
fksr1974@fukuseiren.com

公明党との要望懇談会

去る11月26日、公明党福岡県本部に於いて、毎年開催されている政策要望懇談会が今年も開催され、公明党からは、濱地衆議院議員、森下県議員、浜崎県議員、松田県議員が出席され、福精連からは、一木会長、白石副会長、福田副会長、檜橋が出席して要望意見を述べてまいりました。

冒頭、一木会長から森下・浜崎両県議のご尽力で、福岡・北九州高速道路公社に対し県知事から精神障がい者にも都市高速道路の料金割引実施を検討するよう要請していただいたことに御礼を申し上げます。

冒頭、一木会長から森下・浜崎両県議のご尽力で、福岡・北九州高速道路公社に対し県知事から精神障がい者にも都市高速道路の料金割引実施を検討するよう要請していただいたことに御礼を申し上げます。(左上へつづく)

公明党との要望懇談会 つづき

この件は、本年10月7日、に行われた令和4年度決算特別委員会での浜崎県議より、「都市高速道路の料金割引は、身体障がい、知的障がい対象になっていないのが精神障がい対象になっていないのは何故か」との質問に対し、県土整備部長より「精神障がい者への割引は、身体障がい、知的障がいの方々と同様に、全国の高速度道路事業者で同一の措置が実施されることが望ましく、都市高速道路については、その運営主体である公社が検討し、国から認可を受けるものなので、経営状況を勘案し判断するものと考えますが、公社にも申し伝えて検討を促してまいります。」との回答をいただき、このたびの知事要請となりました。

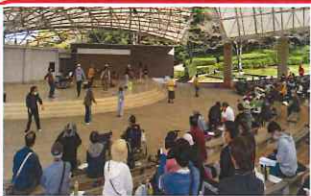
要望の内容は、①精神障がい者も三障がい同一の交通運賃割引制度の適用対象に ②医療費助成の都道府県格差の是正を ③精神の障害年金の改善を ④当事者が地域で安心して暮らせるための多職種訪問支援の仕組みを ⑤障がい者雇用売買取引ビジネスを抑制・停止する働きかけをの5点をお願いしてまいりました。

「要望を整理すると、居場所作りの推進・助成の強化・不平等の是正の3点だと思っております。障がい者雇用売買取引ビジネスは、障がい者を食い物にするような事業である。」「交通運賃に関しては、県として大曲副知事を担当に、特にJRについては強く要請してまいります。」との答弁がありました。

運動(働きかけ)は、家族会活動の二本柱の一つです。今後要望が実現するまで粘り強く運動してまいります。
副会長 檜橋 恭一



副会長 檜橋 恭一



あかつき会家族会 福山 一樹

